

Ⅱ 成果の公表

1. 普及に移した、または普及の参考となる技術情報

令和3年度 第1回農業・農村の課題調整会議
令和3年8月24日（火） 橿原総合庁舎

1) 普及に移した技術課題

	課題名	担当
1	3月以降の果実硬度が高いイチゴの新品種「奈乃華（なのか）」	育種科

2) 普及の参考となる技術・情報

	課題名	担当
1	施設栽培における作業時の暑さを改善する簡易換気扇制御装置	育種科
2	土壌水分が小ギクの開花に及ぼす影響	育種科
3	クマザサ切り葉の日持ちにおける品質保持剤の効果	育種科
4	イチゴを加害する2種アザミウマ類の薬剤感受性の調査	環境科
5	キスジノミハムシ成虫の殺虫剤感受性	環境科
6	キスジノミハムシ成虫が通過できない防虫ネット目合い	環境科
7	コナガの殺虫剤感受性	環境科
8	天敵温存植物ゴマにおけるタバコカスミカメの発生消長	環境科
9	土着天敵タバコカスミカメに対する殺虫剤の影響	環境科
10	チャノキイロアザミウマの殺虫剤感受性	環境科
11	イチゴ・花き類等を加害するナミハダニ黄緑型の殺虫剤感受性	環境科
12	人工飼料を用いたヨトウガ類の簡易殺虫剤感受性検定法	環境科
13	野菜・花き類等を加害するヨトウガ類4種の殺虫剤感受性	環境科
14	トマトすすかび病に対する各種殺菌剤の防除効果	環境科
15	トマト葉かび病菌の感染源	環境科
16	キク黒斑病に対する各種殺菌剤の防除効果	環境科
17	カキの新品種候補の選抜	果樹・薬草研究センター
18	ヤマトウキにおける苗の取扱いが活着および生育に及ぼす影響	果樹・薬草研究センター 大和野菜研究センター
19	茶樹防除暦におけるチャノミドリヒメヨコバイ防除時期の見直し	大和茶研究センター
20	農福連携のきっかけづくりに役立つ農作業ガイドの作成	研究企画推進課

2. 農業研究開発センター成果発表会

令和4年3月3日（木） 農業研究開発センター 交流・サロン棟

1) 成果の紹介（口頭発表）

発表者		課題名
育種科	小林幹生	酒米有望系統の選抜と消化性の検討
育種科	松山俊介	強力系小麦品種「はるみずき」の奨励品種採用
育種科	辻本直樹	ダリア切り花の輸送に用いる低コスト給水資材
環境科	山口貴大	イチゴ栽培での天敵導入によるアブラムシ類の防除効果
果樹・葉草研究センター	中村剛士	柿の収穫期予測への取り組み
果樹・葉草研究センター	小島 英	ヤマトウキの単味製剤向け栽培方法
大和茶研究センター	谷河明日香	耕種的防除法（剪枝）を利用した輸出向け茶生産方法

2) ポスター展示

1	ソルガムを用いた還元土壌消毒によるハウレンソウ萎凋病の防除
2	鉢花・花壇苗のエチレン感受性検定方法の構築と障害程度の分類
3	県育成のイチゴの新品種
4	渋柿のシロップ漬け～長期保存条件の検討～
5	柿葉栽培のための剪定方法
6	河川中の農薬濃度の推移
7	カキ経営における季節雇用者確保のための実態調査
8	生産者に優しい農業機械の開発
9	大和野菜の機能性成分等分析
10	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発
11	奈良県農業研究開発センター育成のキク品種
12	ドローンの利用によるカキ傾斜地における防除の省力化

3. 刊行物

【奈良県農業研究開発センター研究報告 第53号 2022.3】

[原著]

矢奥泰章・西本登志・東井君枝・安川人央・皆巳大輔・堀川大輔・根本明季・厚見治之・宍戸拓樹・佐野太郎・嶋岡龍平・後藤公美	イチゴの新品種‘珠姫（たまひめ）’の育成とその特性	53:1-10(2022)
矢奥泰章・西本登志・東井君枝・安川人央・皆巳大輔・堀川大輔・根本明季・厚見治之・宍戸拓樹・佐野太郎・嶋岡龍平・後藤公美	イチゴの新品種‘奈乃華（なのか）’の育成とその特性	53:11-20(2022)
安川人央・皆巳大輔・西本登志	イチゴの高設栽培における3月の低温管理が果実品質に及ぼす影響	53:21-26(2022)
井村岳男	奈良県でのタバコカスミカメのゴマにおける発生活長と殺虫剤の影響	53:27-34(2022)
中村剛士・高松元紀・市川胤記・杉村輝彦	ハウス柿の生育に及ぼす温度の影響と収穫時期予測法の開発	53:35-43(2022)
佐野太郎・米田祥二・神川 諭	未熟果果皮が濃紫色の在来トウガラシの収集と特性調査	53:45-52(2022)

[短報]

森下星子・小林幹生・福田和明・杉山高世	省力化を目的とした粒状尿素および尿素液肥を利用したコムギ‘ふくはるか’の開花期追肥技術	53:53-61(2022)
井村岳男・小林 甫	イチゴから採集したチャノキイロアザミウマに対する各種殺虫剤の殺虫効果	53:62-64(2022)
小島 英・米田健一	ヤマトトウキにおける植穴あたり苗本数が根の収量に及ぼす影響	53:65-68(2022)
谷河明日香・飯田 宰・瀬川賢正	茶園における黄色LED灯夜間照射によるチャノホソガの防除効果	53:69-78(2022)

[特別報告]

平山喜彦	イチゴ炭疽病の伝染様式の解明と診断・防除技術の確立	53:79-128(2022)
------	---------------------------	-----------------

【農業研究開発センターニュースvol.160 2021.6】

渋柿のシロップ漬けの製造技術の開発
奈良県オンリーワン酒米品種の育成に向けた尿素崩壊性に基づく選抜について
鉢花・花壇苗のエチレン感受性検定
ダリアにおけるキクわい化ウイルス（CSVd）による病徴の解明
カキにおけるチャノキイロアザミウマ被害の多発要因
奈良にゆかりのある遺伝資源の保存と活用について

【農業研究開発センターニュースvol.161 2021.12】

イチゴ新品種‘ならあかり’
土着天敵タバコカスミカメの保護利用について
ヤマトトウキの単味製剤向け栽培方法の検討
剪枝を利用した茶の炭疽病防除について
ハウレンソウのルテイン含有量を高めるための栽培管理方法の検討
研究功労者表彰を受賞しました

4. 知的財産権の保有状況

特許権等の名称	発明考案者	出願年月日	登録年月日 登録番号	共同開発 機関
柿タンニンの抽出方法、及びこの方法で抽出された柿タンニン	濱崎貞弘	H16.3.24	H22.4.23 特許第4500078号	
切り花収穫機	仲 照史 角川由加 小山裕三	H21.10.13	H26.11.7 特許第5640270号	農業・食品産業技術総合研究機構 みのる産業(株)
植物生育環境調節装置	西本登志 堀川大輔 宍戸拓樹 佐野太郎	H25.5.2	H27.4.10 特許第5725627号	大阪府立環境農林水産総合研究所 鳥取大学 農業・食品産業技術総合研究機構 タキロンシーアイシビル(株)
燃焼排ガス中の二酸化炭素を利用した園芸用施設への二酸化炭素供給装置	西本登志 仲 照史 廣岡健司 佐野太郎	(H23.9.13) 国内優先権 H24.9.12	H29.7.28 特許第6179915号	産業技術総合研究所 農業・食品産業技術総合研究機構 大阪ガス(株) 日本軽金属(株)

品種名	育成者権者	登録年月日	登録番号	備考
古都華	奈良県	H23.10.5	21164号	
春日の紅	奈良県	H25.3.6	22340号	
千都の舞	奈良県	H28.3.1	24776号	
千都の風	奈良県	H28.3.7	24876号	
千都の恋	奈良県	H29.3.1	25768号	R4.3.1消失
千都の粹	奈良県	H29.3.1	25769号	R4.3.1消失
春日の鈴音	奈良県	H29.3.28	25914号	
HC3-6-10-11	奈良県	H29.4.25	25973号	やまと甘なんばん
春日W1	奈良県	H30.10.10	27042号	春日の泉
春日Y1	奈良県	H30.10.10	27043号	春日の光
春日Y2	奈良県	R2.3.9	27845号	春日の星
珠姫	奈良県	出願R1.9.9	出願番号34159号	
奈乃華	奈良県	出願R2.8.26	出願番号34891号	
ならあかり	奈良県	出願R3.8.16	出願番号35648号	

5. 令和3年度 研究成果情報 (2022.3)

No.	推進部会	成果情報名	科名	研究者
1	野菜	収穫開始時期が早く、果実摘いが良いイチゴの新品種「ならあかり」	育種科	矢奥泰章、西本登志、東井君枝、ほか
2	作物生産	小麦品種「はるみずき」の奨励品種採用	育種科	松山俊介、小林幹生、杉山高世、ほか

6. 学会・研究会誌への投稿等

著者名	タイトル	種類	学会・研究会誌名	巻号：頁	発表年月
井村岳男	人工飼料を用いた5種チョウ目害虫の簡易な殺虫剤感受性検定	原著	関西病虫害研究会報	63:33-38	2021.6
井村岳男	キスジノミハムシ成虫に対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫害研究会報	63:131-132	2021.6
井村岳男	ダイコンハムシ成虫に対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫害研究会報	63:133-135	2021.6
山口貴大・小林甫・藤田奈都	奈良県のイチゴで発生するアザミウマ類2種に対する各種殺虫剤の殺虫効果	短報	関西病虫害研究会報	63:147-149	2021.6

7. 学会・研究会、シンポジウム等での発表・講演

学会・研究会(口頭発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
山口貴大・小林 甫・藤田奈都	奈良県のイチゴで発生するアザミウマ類2種に対する各種殺虫剤の殺虫効果	第103回関西病虫害研究会大会	関西病虫害研究会報 63:147-149	2021.6.10
濱崎貞弘	柿タンニンの迅速な抽出方法の開発とその利活用技術の開発	全国農業関係試験研究場所長会研究功労者表彰式		2021.6.18
勝真雅大・浅野峻介・平山喜彦・窪田昌春・山中聡	イチゴうどんこ病の発病程度別のボーベリアバシアーナ乳剤(ボタニガードES [®])の防除効果	日本植物病理学会関西支部会	日本植物病理学会報88: 57-58	2021.9.21
浅野峻介・勝真雅大・平山喜彦	奈良県におけるキク黒斑病の発生状況と各種殺菌剤の防除効果	日本植物病理学会関西支部会	日本植物病理学会報88:57	2021.9.21
T. Tsujimoto, Y. Hamaguchi, K. Hirono, Y. Hayashi, T. Hagihara, T. Nagaoka	Characteristics of an early maturing line derived from 'Tone-Wase' persimmon in Nara	VII International Symposium on Persimmon Session2. Breeding and Genetics	7th International Symposium on Persimmon in Nara, Japan. Abstract Book:39.	2021.9.23
杉村輝彦・辻本誠幸	Tour Session	VII International Symposium on Persimmon	7th International Symposium on Persimmon in Nara, Japan. Abstract Book	2021.9.26
米田健一	奈良県における薬用作物の栽培について	薬用植物フォーラム2021	薬用植物フォーラム2021講演要旨集46-54	2021.10.27
小島 英	ヤマトトウキの単味製剤向け栽培方法	地方創生フォーラム 第3部 奈良県漢方メッカ推進協議会研究発表会		2021.11.19
小林幹生	奈良オンリーワン酒米育種の育成について	地方創生フォーラム 第4部 奈良県研究分野統合本部研究発表会		2021.11.19
米田祥二	multiplex PCRによるpamt ² , pun1 ¹ アレルの検出	園芸学会近畿支部令和3年度京都大会		2021.12.17
米田祥二・矢奥泰章・厚見治之	ヒロズキンバエを用いた細胞質雄性不稔トウガラシのF ₁ 採種	園芸学会令和4年度春季大会	園芸学研究第21巻 別冊1:280	2022.3.21

勝真雅大・浅野峻介・鳥居名実子・小林甫	奈良県におけるトマト灰色かび病菌の薬剤感受性	令和4年度植物病理学会大会	令和4年度植物病理学会大会講演要旨予稿集：109	2022. 3. 28
浅野峻介・平山喜彦・勝真雅大・辻本直樹・松下陽介・白澤健太・磯部祥子	RAD-seqによる小ギクのキク矮化ウイルス抵抗性の連鎖解析	令和4年度植物病理学会大会	令和4年度植物病理学会大会講演要旨予稿集：72	2022. 3. 29

学会・研究会(ポスター発表)

発表者	タイトル	学会・研究会名	掲載誌 巻号：頁	発表 年月日
辻本直樹・印田清秀・原田優生	ダリア切り花の輸送に用いる低コスト給水資材の検討	園芸学会令和3年度秋季大会	園芸学研究第20巻別冊2:398	2021. 9. 11
M. Hojo, K. Hirono, T. Nagaoka, K. Ueki, N. Wakisaka	Persimmon pruning method for harvesting leaves for Kakinohasushi	VII International Symposium on Persimmon in Nara, Japan	7th International Symposium on Persimmon in Nara, Japan Abstract Book	2021. 9. 23
T. Nakamura, G. Takamatsu, K. Ichikawa, T. Sugimura, T. Naka	Effect of temperature on maturing and harvesting date of 'Tone-Wase' cultivated in plastic house conditions	VII International Symposium on Persimmon Session3. Crop Management	7th International Symposium on Persimmon in Nara, Japan. Abstract Book:57.	2021. 9. 23
米田健一	塩水を用いた比重選抜および乾燥がヒロハセネガ種子の発芽率に及ぼす影響	薬用植物栽培研究会 第3回研究総会	薬用植物栽培研究会第3回研究総会講演要旨集 47	2021. 12. 4
辻本直樹・印田清秀・原田優生	茎長および品質保持剤が蕾切りダリアの切り花品質に及ぼす影響	園芸学会令和4年度春季大会	園芸学研究第21巻別冊1:333	2022. 3. 21
安川人央・浅尾浩史・西野精二・北條雅也・米田健一・峯圭司・西本登志	ハウレンソウのルテイン含有量に関する品種間差異	園芸学会令和4年度春季大会	-	2022. 3. 21

8. 著書・雑誌・新聞・資料等への掲載、イベント展示、報道発表、テレビ・ラジオ報道

(著書・雑誌)

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
矢奥泰章	イチゴ新品種「珠姫」の育成	施設と園芸	日本農民新聞社	193号:13	2021.4
上田直也	柿の新品種育成のとりくみ	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第312号:1	2021.4
小島 英	「今年の病虫害防除」について	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第312号:2-3	2021.4
小島 英	4～6月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第312号:6	2021.4
濱崎貞弘	くだものよもやま話 世界最古の作物イチジク	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第312号	2021.4
小島 英	奈良県におけるカキ病害の発生動向と防除対策	果実日本	日本園芸農業協同組合連合会	Vol.76 : 39-43	2021.4
杉村輝彦	幼苗接ぎ木と大苗育成による早期着果	農業技術体系 果樹編	(一社) 農山漁村文化協会	4 カキ 改植・更新:140の1の10-17	2021.6
井村岳男	研究室紹介 奈良県農業研究開発センター環境科	植物防疫	(一社) 日本植物防疫協会	第75巻 : 57	2021.6.1
濱崎貞弘	くだものよもやま話 時代を切り拓く柿タンニンの新たな機能	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第313号	2021.7
小島 英	7～9月の重点管理作業 病虫害防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第313号:6	2021.7
杉村輝彦	幼苗接ぎ木と大苗育成による早期着果	最新農業技術 果樹	(一社) 農山漁村文化協会	vol.14:223-230	2021.8
矢奥泰章	イチゴの新たな花粉媒介昆虫としてのヒロズキンバエ	技術と普及	全国農業改良普及支援協会	Vol.58:14	2021.10
木矢博之	ハウレンソウ萎凋病 土壌還元消毒にソルガムが使える	現代農業	(一社) 農山漁村文化協会	2021年10月号	2021.10
濱崎貞弘	くだものよもやま話 果物を食べると糖尿病のリスクが下がるという話	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第314号	2021.10
濱崎貞弘	奈良の名産 柿を知る	月刊奈良	公益社団法人現代奈良協会	第61巻第8号	2021.10

執筆者名	タイトル	掲載誌名	発行元・出版社	巻号：頁	発表年月
仲 照史	柿博物館で学ぶ、柿のこと。	月刊奈良	現代奈良協会	第61巻第10号:8	2021.10
小島 英	10～12月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第314号:6	2021.10
井村岳男	最近話題となっている病害虫 タバコノミハムシ	植物防疫所 病害虫情報	農林水産省 横浜植物防疫所	第125巻：6	2021.11
濱崎貞弘	くだものよもやま話 くだもの初詣2022	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第315号	2022.1
濱崎貞弘	柿タンニンの迅速な抽出方法の開発 とその利活用技術の開発	JATAFFジャーナル	農林水産・ 食品産業技術振興協会	vol.10-1:44-47	2022.1
濱崎貞弘	農家が教える 酢とことん活用読本 柿産地の研究者が教える柿酢の作り方	別冊現代農業	(一社)農 山漁村文化協会	114-115	2022.1
小島 英	1～3月の重点管理作業 病害虫防除	奈良の果樹	奈良県果樹研究会	第315号:6	2022.1
濱崎貞弘	濟州と日本のちょっといい話	在濟州日本国総 領事館ホーム ページ	外務省		2022.2
杉村輝彦	奈良県のカキ園におけるチャノキ イロアザミウマ被害の発生状況	植物防疫	(一社)日 本植物防疫協会	第76巻：86-91	2022.2
飯田 宰	最近育成された品種について	茶やまと	奈良県茶生 産青年協議会	第70号	2022.2
井村岳男	タバコノミハムシの発生生態と防 除について	植物防疫	(一社)日 本植物防疫協会	第75巻：64-67	2022.2.1
仲 照史	小ギクの開花を揃える	現代農業	(一社)農 山漁村文化協会	第101巻第4 号:158-163	2022.3
浅野峻介	トマト黄化えそウイルスによるダ リア輪紋病の防除対策	グリーンレポ ート	JA全農	第633巻：16-17	2022.3
井村岳男	チョウ目害虫5種における人工飼料 を用いた簡易な薬剤感受性検定法	植物防疫	(一社)日 本植物防疫協会	第75巻：153-158	2022.3.1

(イベント展示)

発表者	タイトル・テーマ・見出しなど	イベント名	発表年月日
研究企画推進課	業務概要（研究計画・成果）を紹介	NAISTキャリアフォーラム2021	2021. 11. 16
奈良県農業研究開発センター	県育成品種の紹介、研究成果の事業化、新たな共同研究シーズの発見	アグリビジネス創出フェア2021	2021. 11. 24-26
奈良県農業研究開発センター	研究成果の発表、成果発表会の紹介（ポスター展示）	県庁屋上展示	2022. 2. 7-10

(報道発表)

担当	タイトル	発表年月日
研究企画推進課	センターニュースvol. 160を発行しました	2021. 8. 12
研究企画推進課	農業研究開発センター公開デー開催！	2021. 10. 7
研究企画推進課	センターニュースvol. 161を発行しました	2022. 1. 28
研究企画推進課	農業研究開発センター成果発表会を開催します	2022. 1. 28

(新聞)

テーマ	タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	掲載日
山口貴大	春夏野菜主要病害虫防除のポイント 虫害	全国農業新聞 第3186号：5	2021. 4. 2
井村岳男	トビイロウンカの防除対策について	なら植防ニュース 第120号：2	2021. 7
山口貴大	秋冬野菜主要病害虫防除のポイント 虫害	全国農業新聞 第3203号：9	2021. 8. 13
勝真雅大	シンポジウム 新しい時代に向けた病害虫の診断と発生予察を考える	なら植防ニュース 第121号：2	2021. 10
浅野峻介	施設園芸作物の病害虫防除（病害）	日本農業新聞 第20917号：4	2021. 10. 28
山口貴大	施設園芸作物の病害虫防除（虫害）	日本農業新聞 第20917号：4	2021. 10. 28
井村岳男・浅野峻介	令和3年度の病害虫発生について	なら植防ニュース 第123号：1-2	2022. 3

(奈良新聞「農を楽しむ」)

担当者	タイトル	所属	掲載日
高松元紀	土のpHについて	環境科	2021. 4. 11
今西将太	食を潤す「品種」の話	研究企画推進課	2021. 5. 9
米田祥二	シソの話	育種科	2021. 6. 13
米田健一	薬用作物の修治の話	大和野菜研究センター	2021. 7. 11
山口貴大	アブラムシの天敵たち	環境科	2021. 8. 8
辻本誠幸	カキの枝変わり	果樹・薬草研究センター	2021. 9. 12
辻本直樹	ダリアを長く楽しむ	育種科	2021. 10. 10
西野精二	刀根早生柿の生い立ち	加工科	2021. 11. 14
飯田 宰	家庭での茶栽培	大和茶研究センター	2021. 12. 12
浅尾浩史	着目されているハウレンソウの機能性	大和野菜研究センター	2022. 1. 9
小林幹生	小麦の種類と国産小麦	育種科	2022. 2. 13
野あおい	植物のポリフェノール	加工科	2022. 3. 13

(テレビ・ラジオ)

発表者	番組・タイトル・テーマ・見出しなど	提供先メディア	発表年月日
仲 照史	おはよう朝日です「けさのクローズアップ」	朝日放送テレビ	2021. 6. 9
仲 照史	ゆうドキッ！	奈良テレビ放送	2021. 8. 16
仲 照史	ゆうドキッ！「秋の博物館紹介」	奈良テレビ放送	2021. 9. 30
仲 照史	よんちゃんテレビ	毎日放送テレビ	2021. 10. 21
仲 照史	おはよう関西	NHK大阪	2021. 10. 26
矢奥泰章	かんさい情報ネットten.	読売テレビ	2021. 12. 24
矢奥泰章	奈良イチ研究所	近鉄ケーブルネットワーク	2022. 3. 1

9. 令和3年度 奈良県農業研究開発センター研究評価委員会 評価結果

令和4年2月9日開催 農業研究開発センター交流・サロン棟

評価対象課題等について

- 1) 評価対象課題
中期運営方針に基づき、令和3年度に実施した、7つの大課題、23の小課題を対象とする。
- 2) 評価方法
必要性、達成状況、事業効果について5段階の評価を行う。評価委員会の各委員の評点を合算の上、平均値を求める。
- 3) 評価結果の活用
農業研究開発センター所長は、評価結果を研究活動等に適切に反映させ、9未満の場合は、委員の提言に従って修正または見直しを行い、研究企画委員会へ報告する。

評価委員名簿

上田 味哥子	奈良県指導農業士会前会長	
江口 充	近畿大学 副学長兼農学部部長	
鶴木 千里	前奈良県消費生活審議会委員	(欠席)
前田 伸一	奈良県指導農業士会会長	
乾 新弥	奈良県食と農の振興部長	

各研究課題の評価(評価委員の平均値で記載)

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
薬用作物の安定供給	地域ブランド力を高める薬用作物生産技術の開発	抽苔しにくい優良品種の育成	4.0	3.3	4.0	11.3
		<ul style="list-style-type: none"> ・時間のかかる事業ではあるが着実に進んでいる。 ・水に浸漬することによる発芽率の向上など有意義なデータを得られている。一方で抽苔しにくい系統の選抜効果があまり見られないようにも思える。もうしばらく選抜を繰り返し、効果を期待したい。 ・非常に時間がかかりご苦労の多い研究ではあるが、生産現場に優良品種を届けて、産地拡大を願いたい。 				
		実需者の求める高品質な薬用作物生産技術の開発	4.0	3.1	4.0	11.1
		<ul style="list-style-type: none"> ・どのような土壌が向いているかを知ることは生産現場においては重要である。 ・マニュアルが完成しそうで良かった。やればやるほど問題点が出てくるものと思われるが、マニュアルに追記して行けばよい。ヤマトトウキの生産者の育成に役立ちそう。 				
	単味製剤原料向けトウキの省力栽培技術の開発	4.3	3.0	4.0	11.3	
	<ul style="list-style-type: none"> ・省力栽培技術の向上や作業効率を高める事は生産者にとっては重要である。その事により栽培面積を増やせるメリットは大きい。 ・単味エキス製剤用のトウキ栽培では省力化を可能とする栽培技術を詳細に作り上げており、この課題もマニュアル化が期待される。 					
宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	宇陀地域に適した薬草栽培技術の開発	4.0	3.5	4.0	11.5	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に適した作物を見つけるのはとても大切である。 ・ヒロハセネガとボウフウに品目が絞られてきたのかと思う。問題点も絞られ、一部解決に向かって見えるように見える。研究内容が具体的になってきている点は良い。 ・中国産より成分の含量が多いのは販売面で有利に働き、宇陀地域の栽培面積の拡大に期待したい。 					

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
優良品種 の育成	奈良オリジナルの 優良品種の育成	取引に有利なケーキ店用、高級果実店用品種の育成	5.0	4.3	4.3	13.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・アスカルビー、古都華を含め奈良のブランドとして発信できるのはとても良い。それぞれの品種の特性を見極め、より一層の情報発信をしていただきたい。 ・奈良県は優良なイチゴ品種を確実に出せる県であり、優秀な育種家の存在を感じさせる良い仕事だと思う。 ・奈良県産イチゴの品質の高さ、各品種の味の良さをより多くの人に届けてください。 				
		需要期に安定して開花する小ギクや特色ある奈良ブランド菊の新品種の育成	5.0	3.8	4.3	13.1
		<ul style="list-style-type: none"> ・盆出荷や端境期の出荷は収益につながり、経営が安定していれば、後継者も育ちやすいので期待する。 ・問題点も絞られており、それぞれの目標に向かって着実に選抜が進んでいる。 				
		奈良オンリーワン酒米品種の育成	4.5	4.3	4.0	12.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県の平坦地で作れる品種ができたのは量産につながるのもより一層の収量を確保し、清酒を造ってほしい。おいしい清酒は輸出もでき、期待が大きい。 ・奈良県の酒蔵とうまく連携して作付面積の拡大を図り、耕作放棄地の解消にもつなげて欲しい。 				
		新たな高品質甘柿品種の育成	5.0	3.5	4.0	12.5
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい品種が出来るのは待たれるところである。継続してほしい。 ・収穫時期にターゲットを絞り、奈良県オリジナル品種を作るということで、非常に分かり易く役に立つ研究になっている。時間のかかる大変な仕事だが、高接ぎなどの園芸技術を最大限に利用しているため、品種開発が加速することが期待される。 					
	遺伝資源の保存と 活用	奈良に歴史的ゆかりのある遺伝資源の保存と活用	4.0	3.3	3.5	10.8
		<ul style="list-style-type: none"> ・今では無くてもいつかのために備えておく必要はある。 ・縁の下の力持ちのような仕事で、成果に華やかさがなく評価され難い研究だが、重要。一旦保存を始めると未来永劫保存することが求められる。どこかの時点で継続可能な範囲（労力、資金、保存スペース等）を明確にした基準作りが必要だとは思う。 ・地味ではあるが、非常に重要な仕事である。この業務を将来にわたって続けられる様、「活用」についても努力願いたい。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計	
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均		
評価委員の意見							
加工商品の開発と加工技術の研究	奈良の特産品を用いたオリジナル加工品の開発	渋柿を原料とする糖蜜漬けの製造技術の開発	4.5	3.8	3.8	12.1	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 格外果実も商品として利用できれば、農家の収益アップにつながる。製菓業の方のアイデアにより、より一層の新しい商品が出来れば、利用も増える。 ・ 問題点が整理され、商品開発の出口が近づいている。 ・ アルミパウチを使うと内容物が見えなくなるので、もう一步パッケージングが必要に思う。食感が西洋ナシのようで、とてもおいしかった。 					
		柿葉を利用した後発酵茶の開発	4.3	3.8	3.8	11.9	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 味に特徴があるので、その点を売り込めば良いのではないかと。 ・ 奈良県独自のストーリー性を加味して行けば、面白い商品になる。機能性があるのは良いことなので、他の食品との比較がポイントになるように思う。 ・ 桜の木から乳酸菌、プラス柿の葉のお茶、そして、機能性、健康に結びつき、本当に素晴らしい。 					
	加工適性を高める栽培技術の開発	素麺やパンに適した新たな小麦品種の選抜	4.0	4.0	4.0	12.0	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良県産の小麦で麺類やパンに適するものが出来れば、安定して利用できるし、安心安全の点においても有意義だと思う。 ・ 「はるみずき」が奨励品種になったということで、製パンや素麺に非常に良さそうな品種であり、後は栽培時期や施肥条件などの栽培マニュアルの完成かと思う。上手く軌道に乗った試験研究だと思う。 					
		ワインに適したブドウ品種の果実品質研究	4.0	3.3	3.3	10.6	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域にあったブドウ品種が確定されつつあると見受けられる。栽培技術の向上により、量が確保できればと思う。おいしいワインができあがる事を願う。 ・ 病気の問題をどうするのかは工夫が必要だと思う。 ・ 奈良県初のワイナリーという目標に向けて超えなければならない問題はありますが、目標達成に努力して下さい。 					
	高品質に繋がる生産技術の開発	機能性を向上させる生産技術の開発	大和野菜の機能性を向上させる生産技術の開発	4.3	4.0	3.8	12.1
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 奈良の伝統野菜や大和のこだわり野菜等の幅広い品種についても、機能性成分のわかりやすい表示をして欲しい。 ・ 機能性向上を利用したブランド化という視点は大事。機能性成分含量の数値目標を設定したうえで、奈良の気象条件に合った再現性の高い栽培条件に絞って試験研究をしても良いのではないかと。 ・ 品種間及び作型での間差がある事も生産者に、この時期にはこの品種などの情報を早く知らせてほしい。 				
輸出向け生産技術の開発		輸出需要向け茶生産技術の開発	4.5	3.3	3.5	11.3	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の技術開発により農薬をどれだけ減らすことができるのか、という点について、数値データがあればより良い。 ・ 国内消費が落ち込む中、輸出に新しい消費拡大を求め、作付面積の拡大を図ってほしい。 						

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
安定生産 技術の開発	環境変動に対応した 安定生産技術の開発	吸湿剤を使って低コストに施設内の温湿度を調整するシステムの開発	4.3	3.3	3.5	11.1
		<ul style="list-style-type: none"> 現在の地球環境の保全の面からも、とても意義がある。 県内重油消費量の10%削減、二酸化炭素排出量の2000トン/年削減は非常にインパクトのある数値だと思う。それだけに、それを裏付けるハウス内の具体的な温湿度の経時変化を示すデータなど、具体的なデータ（数値）を常に示すようにしてください。 油代が高い中、経営の足を引っ張っているなので、できるだけ早く現場に投入してください。 				
		計画出荷に不可欠なキクの開花予測技術の開発	4.8	3.3	4.3	12.4
		<ul style="list-style-type: none"> 圃場ごとに開花日がわかれば出荷計画が立てやすくなる。生産者がタブレットやスマートフォンなどで手軽に使えるようになれば、利用者は増える。 年々精度が良くなっている。市場と連携して有力情報を共有し、計画出荷による有利販売に繋げてほしい。 				
		遺伝子診断技術によるキク、トマトなどの重要病害診断技術の開発	5.0	3.8	4.0	12.8
<ul style="list-style-type: none"> 生産現場では、農薬の利用で何を使うか迷う事もある。研究結果を示してもらえれば、病害の予防や減農薬につながりたいへん助かる。 被害が拡大する前に農家に適切な薬剤を必要最小限で散布するように指導するために重要な試験研究だと思う。PCRマーカーも出来てきているので方向性は定まってきている。 						
省力化技術 の開発	生産者に優しい 生産技術の開発	脚立を使わないカキの低木栽培技術の開発	4.5	3.3	3.5	11.3
		<ul style="list-style-type: none"> 年数のかかる研究であるが、生産者にとってはずっと上を向いての作業が多い中で、長く働き続けられる技術だと思う。安全に作業できるのはとても重要である。 農業者も高齢化している中、低木技術をより早く現場投入し、生産の向上に繋げてほしい。 				
		女性に優しい農業機械の開発	4.5	3.3	3.3	11.1
		<ul style="list-style-type: none"> 音も静かであれば住宅地に近い圃場での作業がしやすくなる。傾斜地に強い作業車であればより幅広い使い方が出来る。 適正価格で農業従事者の方々に広まると良い。 				

大課題	中課題	小課題	評価区分			合計
			必要性 平均	達成状況 平均	事業効果 平均	
評価委員の意見						
環境保全型農業技術の開発	環境に優しい生産技術の開発	天敵を利用した防除体系の安定化	5.0	4.0	4.5	13.5
		<ul style="list-style-type: none"> ・問題点が整理出来てきている。天敵を利用した総合防除はいわば生態系コントロールであり、とても難しい技術。害虫を特定し、天敵を入れ、それなりに良い成果を出している。まだ、防除できていない昆虫をどのように防除するのが今後のポイントになる。期待したい研究。 ・安全安心のアピールにもなり、消費拡大につなげてほしい。農家にとって農薬散布はとても重労働なので、省力化にもつながりやすい。 				
	有機農業に活用できる技術の開発	有機野菜の総合的害虫管理技術の確立	5.0	3.3	4.0	12.3
		<ul style="list-style-type: none"> ・近年、キスジノミハムシの被害がかなり見られる。有機農業の技術を一般の生産現場でも使えるように広げて欲しい（露地栽培など）。 ・ターゲットを絞った良い研究が展開されている。なお、良い効果を提示するときには、必ず何故そのような良い効果が生まれるのか、その科学的根拠（メカニズム）を明確に示すと、説得力が出る。 ・UVカットフィルムのデメリット（菌の抑制）、肥培管理なども研究してほしい。 				
	土壌改良に活用できる技術の開発	水田転換圃場の土壌改良技術の研究	5.0	3.3	3.3	11.6
		<ul style="list-style-type: none"> ・水はけが悪く、水田としてしか利用しにくい田が結構多くある。排水対策が出来れば、野菜などの収益の上がる作物を作っていけるので、技術開発は有益だと思う。 ・土地改良技術開発の中で排水という問題にターゲットを絞ったことで、研究の進展が見られるようになった。まだ細かな問題は多数出てくると思うが、大きな問題を解決してから一つずつ解決して行くといい。 ・ハウス内明渠も効果大であると思う。 				

10. 共同研究・受託研究(外部資金研究)の実施状況

研究課題名	共同研究機関	委託事業(資金)名	委託機関(契約先)	担当科・研究センター	研究期間
イチゴの育種素材の検討	—	育成系統評価試験(イチゴ)	農研機構野 花研	育種科	H23～
農地管理実態調査	—	農地土壌炭素貯留等基 礎調査事業	農林水産省 近畿農政局	環境科・研究企画推 進課	H25～
茶樹の新規育成系統における産 地適性の検討	—	茶育種研究に係る系統 適応性・特性検定試験	農研機構果 茶研	大和茶研究センター	H27～
ドローンの利用によるカキ傾斜 地における防除の省力化	農研機構果茶研、鹿 児島県、愛媛県、和 歌山県、三重県、静 岡県、ヤマハ発動 機、丸山製作所、エ スコ、NES、花王、 モベンティブジャパ ン、東京農大、住友 化学、シンジェンタ ジャパン、各県のJA や生産者	ドローンやセンシング 技術を活用した果樹の 病害虫防除管理効率化 技術の開発(農水省戦 略プロ)	農林水産省 →農研機構	果樹・薬草研究セン ター	H30～ R4
微生物殺虫・殺菌剤を用いた野 菜重要病害虫のデュアルコント ロール技術の開発	農研機構野花研、摂 南大、宮城県、群馬 県、岐阜県、三重 県、アリストライフ サイエンス、ヤマホ 工業	イノベーション創出強 化研究推進事業(農水 省)	農林水産省 →農研機構 野花研	環境科	R2～R4
遺伝資源データベースの整備と 公開	農研機構遺伝資源セ ンターほか	植物遺伝資源の民間等 への提供促進(農水省 戦略プロ)	農林水産省 →農研機構	大和野菜研究セン ター	R1～R7
特産花きの品質低下要因の解明 と品質保持技術の開発	MPSジャパン(株)ほか	ジャパンフラワー強化 プロジェクト推進(持 続的生産強化対策事業 のうち)	農林水産省 →国産花き 生産流通強化 推進協議会	育種科	R3
ダリア新規育成系統の特性調査	農研機構野花研ほか	ジャパンフラワー強化 プロジェクト推進(持 続的生産強化対策事業 のうち)	農林水産省 →農研機構 野花研	育種科	R3
吸湿剤を用いた施設園芸施設内 の温湿度調整システムの開発	国立研究開発法人産 業技術総合研究所	—	—	育種科	R3～R5
NDVIを利用したパン用小麦「は るみずき」の加工適性を向上さ せる開花期追肥技術の開発	ヤンマーアグリジャ パン	—	—	育種科	R3
酵母を利用した新しい柿葉加工 食品の開発	—	公益財団法人 東洋食 品研究所 研究助成事 業	公益財団法 人 東洋食 品研究所	加工科	R3
ESG・SDGs理念に基づく奈良式柿 渋(柿タンニン)の抗ウイルス 性能を活用した繊維製品への展 開を目指す研究	住江織物株式会社 広島大学	—	—	加工科	R3
農薬残留対策総合調査	—	農薬残留対策総合調査	環境省	環境科・研究企画推 進課	R3～
出荷適期の予測を可能とするA Iによるカキ生育モデルの構築	近畿大学、農研機構 果茶研、岐阜県、福 岡県、YuMake合同会 社	革新的スマート農業開 発(農水省国際競争力 強化技術開発プロ)	農林水産省 →農研機構 →近畿大学	果樹・薬草研究セン ター	R3～R4
新農薬等実用化試験	—	—	奈良県植物 防疫協会	環境科・果樹・薬草 研究センター・大和 茶研究センター・大 和野菜研究センター	R3